

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	太良町立大浦小学校
1 前年度 評価結果の概要	・中間評価で進捗状況をしっかりとふり返り、その後の対策を立てたことで、最終評価では3つの項目でB評価からA評価となった。ただ、最終評価が中間評価のB評価のままの項目は、達成できなかった要因を踏まえて次年度の取組につなげていく。 ・タブレットの活用については、校内研究での取組もあり、職員のスキルが高まり活用が推進されるという成果があった。次年度は、独自評価項目に挙げて更に力を入れて取組を進めていく。 ・業務改善や組織力の向上についての取組がなかなか効果が上がらなかった。ただ、教職員の働き方に関する意識は少しずつ高まっている。次年度は、組織の体制や業務内容を見直し、職員が働き方改革を実感できるような環境づくりに努めていく。
2 学校教育目標	ひこばえの心をもち、強く・かしこく・美しく生きる子どもの育成を図る
3 本年度の重点目標	①生き生きと学び、自分の考えを表現できる子どもの育成を図る。 ②心と体をきたえ、粘り強く挑戦する子どもの育成を図る。 ③自己肯定感や自己有用感をもち、認め支え合い、ふるさと大浦を誇りに思う心の育成を図る。 ④教職員が心身ともに健康で働くことのできる環境の整備を図る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○授業改善の推進 ○振り返りをいかす授業の共通理解と 共通実践	○授業改善を意識して学習を進めたと 答える教師の割合100% ○授業では、学習の振り返りを次の学 習につなげている児童の割合80%以上 ○活動内容がよくわかり、学習内容を理 解したと答える児童の割合85%以上	・授業づくり1・2・3を踏まえて実践していく。 ・家庭学習の定着をする。 ・自ら学ぶ習慣をつけるために、自主学習の 奨励をする。(自学コンテストの実施) ・語彙力を高める取り組みをする。(読書の 奨励、辞書引き大会など) ・ICTを活用した授業実践に取り組む。 ・ICT活用能力を高める。(タイピング検定、 タブレットタイム) ・観点を示して、振り返りを行う。	・		・				○確かな学力PJ	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」「自分は 誰かの役に立っている」の項目で肯定的 な回答をした児童90%以上。 ○「学校や地域をよくするために何か やってみたい」と答える児童90%以上。	・道徳科の授業や人権集会等を通して、自 他の生命の大切さや、周囲の人との関わり 方について考える機会を設ける。 ・QUアンケートに関する校内研修を実施す る。 ・「きらきらの森」の取組を年3回行い、自己 肯定感や自己有用感の向上を図る。 ・生活科や総合的な学習の時間において、 地域の人々と関わる場面を意図的に設定す る。	・		・				○豊かな心PJ	
	●いじめの早期発見、早期対応に向け た取組の充実	○「まわりの人たちが、困っている人に 優しくしている」と答える児童90%以 上。 ○「困ったときや不安なときは家族や先 生など大人の人に相談できる」と答える 児童90%以上。 ○いじめ防止等について組織的対応が できていると回答した教員100%。	・周囲に優しく接した場面を取り上げて称賛 する時間を、帰りの会の中で設定する。 ・心のアンケートを実施し、いじめの早期発 見に努めるとともに、事案発生時には迅速 に対応する。 ・年2回、担任と児童による教育相談を実施 し、児童の状況把握と信頼関係の構築を図 る。 ・毎週、子ども支援連絡会を実施し、教師間 の情報共有及び指導の統一を図るととも に、家庭との連携に努める。	・		・				○豊かな心PJ	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その 実現に向けて意欲的に取り組もうとする ための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてく れていると思う」と回答した児童90%以 上 ●「将来の夢や目標を持っている」につ いて肯定的な回答をした児童95%以上	・日頃から、行事や係活動等において児童 が活躍できる役割や機会を設け、励みとな るような承認や称賛の言葉かけを行う。 ・道徳科の授業や学級活動等において、夢 や目標をもって行動することの大切さを児童 が実感できるよう、手立てや声かけを行う。 ・キャリア・パスポートを活用し、将来の夢や 目標を意識する機会を設ける。	・		・				○豊かな心PJ	
	○安全意識の向上	○毎月の生活目標を守って行動してい ると答える児童の割合90%以上。 ○危険から身を守るためにはどうすべ きを意識して生活している児童の割合9 0%以上	・毎月、学級や全校集会において生活目標 の振り返りを行い、継続的な意識の向上を 図る。 ・年間3回の避難訓練を通して、危険から身 を守るための方法を理解させ、日常生活に 生かせるようにする。	・		・					○豊かな心PJ
	●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力 の育成」	②太良町100点運動の5つの取組の平 均が80点以上の児童90%以上。 ③「健康に良い食事をしている」児童生 徒90%以上	・昨年度の課題である、ゲームの使用時間 や睡眠時間の項目について守れるように、 通信等で家庭への啓発を行ったり授業を 行ったりする。 ・食育授業内容の提案。 ・栄養教諭との連携を図り各学年1回の食育 授業の実施を行う。 ・各部人材を活用し、食に関する興味関心を 高める。	・		・				○健やかな体PJ
○運動・スポーツへの興味関心の向上 と積極的な関わりの促進		○「授業や休み時間など学校生活にお いて体を動かすことが好きだ」と回答す る児童90%以上。	・委員会主催で、スポーツフェスタを年2回 行う。 ・スポーツチャレンジの種目や道具を紹介 し、積極的な参加を促す。 ・さがんキッズ体力アップ記録カードを活用 し体力向上の意欲を高める。	・		・				○健やかな体PJ	

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・退勤予定時刻をボードに提示することで、1日の業務を計画的に行う習慣をつける。 ・職員がワークライフバランスを考えて勤務する習慣を身につけることができるように、関連資料の配付や会議等の機会に職員に話を行う。 ・長期休業中の行事をスリム化し、年休を取りやすい環境づくりに取り組む。		・			・		○校長・教頭
	○学校便りやPTAの中での働き方改革についての保護者や地域への周知 ○教育課程の見直しによる放課後の時間確保	○業務改善が進み、働き方改革を実感できたと感じる職員の割合80%以上。 ○放課後の時間にゆとりが生まれたと答える職員80%以上。 ○ICT(タブレット)を活用して、業務の改善につながったと答える職員の割合80%以上	○学校たより等やPTAの機会を通じて学期に1回以上周知する ○学校・家庭・地域における役割分担の明確化と実践のために、学教評議員会の議題にする(年2回) ○教務主任と連携し、勤務時間内で実現可能な学校規模に応じたコンパクトで教育効果の高い教育課程の実現語る。 ○LGトークや校務サーバー、AIを活用して連絡や情報の共有、資料等の作成を行い業務改善を図る。		・			・		○校長・教頭・教務
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別な支援を要する児童への対応力が向上した」と答える職員80%以上。	・長期休業中に特別支援に関する研修会を全職員向けに実施し、スキルアップを図る。 ・毎週の子ども支援会議等で、各担任と支援が必要な児童への対応について、情報共有をする。職員間で対応策を検討し、連携して一人ひとりに合った対応を行っていく。		・			・		○特別支援CO・特別支援学級担任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○国際交流の促進	○国際交流による多文化理解 ○自分たちが暮らす地域の良さの再認識	○「国際交流をしたい・興味がある」と思う児童の割合を85%以上 ○「地域の良さを伝えることを意識して学習を進めた」と答える職員90%以上	・道徳や総合的な学習の時間を活用して、外国の文化の暮らしについて知る場を設ける。 ・総合的な学習の時間を通して、自分の郷土について調べ、発信する場を設ける。	・		・		・	○確かな学力PJ	
○ICTの活用の促進	○校務や授業でのICT(タブレット)活用の推進	○校内研の取り組みを理解し、ICT(タブレット)効果的な活用に取り組んだと思う職員の割合80%以上	・授業での実践を行い、職員間で学びを共有することで効果的なタブレットの活用を図る。 ・研究主任、情報化推進リーダーによる職員研修を開催し、タブレット活用スキルの向上や校内研究への理解を深める。 ・1学期はタブレット活用への技術と内容について理解を深め、2学期以降は、実践を主にタブレット活用を行い校内研を進める。	・		・		・	○研究主任・副主任・情報化推進R・	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------